

令和3年度 宮崎市環境審議会 議事録(要旨)

日時：令和3年10月27日(水) 9:57~11:46

場所：宮崎市民プラザ 4階 ギャラリー(1)

議 事

(1) 第三次宮崎市環境基本計画に基づく 令和2年度 個別施策の実施報告

事務局説明	＜事務局から「第三次宮崎市環境基本計画に基づく 令和2年度 個別施策の実施報告」【資料①】について説明。＞
-------	---

委員質問	6ページの達成度のところで、全体的にはまずまずだが、長期的目標Ⅲの自然環境の保全の項目が目立って低い理由はあるか。
事務局回答	自然環境の保全については、まず項目数が他の長期的目標と比べて少ないため、その中で未達成があると達成率がぐんと低くなることと、項目の中で新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものが多いため。

(2) 第三次宮崎市環境基本計画に基づく 令和2年度 目標未達成となった個別施策

事務局説明	＜事務局から「第三次宮崎市環境基本計画に基づく 令和2年度 目標未達成となった個別施策」【資料②】について説明。＞
-------	---

委員質問、意見	1ページの施策 No. I-10-2 について、宮崎処理場の乾燥肥料の生産数量の目標値が 88,000 袋だが、増産できる余地はあるのか。 また、売れ残りをなくすには、量販店とかに卸すと解消されると思う。
事務局回答	施設の増強、設備の増加をしない限りは汚泥が増えないので、生産数もこれぐらいまでしか作れない。

委員意見	3ページの施策 No. II-31 の植林面積について、課題として、木材価格の低迷により植林意欲がわかなかったとあるが、実は去年5月から8月ぐらいは木材価格が下がっていたが、その後、後半は値段が相当上がって、実はチャンスだった。しかし、それを生かすできなかったところが課題だと思うので、もう少し丁寧に説明した方が良いと思う。
------	--

委員意見	<p>6ページの施策 No. III-41 の子ども自然体験活動について、改善に向けた取組として、コロナの状況が改善したとしても、なかなか目標を達成するというのは難しいと思う。この自然体験教室などが人気であることもわかるが、このコロナ禍において、運営、活動する方法を変えて、例えばオンラインで開催するとか、もっと市民に周知して、参加してもらえよう取組を考えてもらえると良いと思う。</p>
------	--

委員意見	<p>全体的に見て、第三次宮崎市環境基本計画が策定された時期にはそれほど市民権を得ていなかったと思われる「SDGs-国連による17の目標」との関連を考えた方が良くはないかと感じる。SDGsという言葉は市民にかなり浸透してきているので、そういった背景を活用して、環境に関する意識の向上や子どもたちの学習意欲の向上に繋げるような施策をすることができれば、よりスムーズに進むのではないかと考える。</p>
------	---

委員意見	<p>8ページの施策 No. V-62 の環境美化の日、市民一斉清掃について、コロナの影響を受けて参加が少なく、未達成となっていると思うが、もう一遍に全員が集まってやるということを前提にして開催するより、分散して開催するようなやり方もこれから取り入れていけば良いと思う。コロナをきっかけに何かやり方も変えていくというのが、他のすべての施策でも生かしたらというふうに思う。</p>
------	---

委員意見	<p>施策 No. V-62 の実績だが、いろんな団体もごみ拾いと清掃活動をしていると聞いているので、その数値を集計すると、この実績も上がってくるのではないかと思う。</p>
------	---

(3) 第三次宮崎市環境基本計画に基づく 令和2年度 市民満足度の評価

事務局説明	<p>&lt;事務局から「第三次宮崎市環境基本計画に基づく 令和2年度 市民満足度の評価」【資料③】について説明。&gt;</p>
-------	---

委員質問	<p>市民アンケート調査の「満足度と重要度の関係分析」を12ページでしており、今後重点的に進めていくべき取組が示されているが、14ページの</p>
------	---

	「今後宮崎市が重点的に進めていくべき施策」の調査結果と整合性が取れていないようだが、どのように考えるか。
事務局回答	12～13 ページで関係分析している問5は、現在市が取り組んでいる施策についての満足度と重要度を問うものである。一方、14～15 ページの問6については、現在市が取り組んでいない項目も含めて、今後市が重点的に進めていくべき施策を問うものであるため、結果に違いがある。本市としては、これら両方ともが今後重点的に進めていくべきものであると考える。

委員質問	10 ページの「不満」＋「やや不満」の上位項目である「10 快適な公共空間の確保」について、13 ページを見ると重要度が高い部類に入っている。個人の感覚ではそれほど不満とは思わないが、「快適な公共空間の確保」とは何を指しているのか。
事務局回答	12 ページの「参考」というところで、市民アンケートにおける取組項目（1～15）ごとの具体的内容として、今現在宮崎市が取り組んでいる内容をその番号ごとに例示している。これを見て、例えば大気汚染物質等の測定、ヒートアイランド対策、これらがもしかしたらピンと来なかったのかも知れないと、反省している。

委員意見	11 ページの一番下、「とても重要」＋「やや重要」の1位が「5 水質の保全」、それに対して「重要でない」の一番下が「8 水辺環境の保全と活用」になっており、相反していると思ったところだが、水質の保全をするにはそれぞれの市民の努力が必要ではないかと思うので、市民に向けての啓発、皆さんの努力が必要だということをPRしてもらえたらと思う。
------	---

委員意見	満足度調査については、逆から見れば、不満足度調査とも言えると思う。国の環境白書によると、環境の問題点で多いのは悪臭、騒音、排気ガスの汚染などが上位に挙がってくる。この調査結果を見ても、市民が不満足に思っているのが、生ごみであるとか、生活臭であるとか、そういったものなのではないかと予想される。満足度をさらに上げる方法ではなく、不満足の方を消していくような形の方がより効果的ではないかと考える。啓発活動によってしか合理的になっていかないものもあるが、そこを使い分けながら、施策を作ってもらえればと感じる。
------	---

委員 質 問	自分の地域では10年以上、定点観測で水質検査を受けている。市と自治会とか地域の関係者で行っているが、年々良くなっている。水質検査は市内の河川全部で行っているのか。
事務局回答	河川浄化推進協議会と河川浄化推進員などが、年2回パトロールを行っているが、市内各所にそうした推進協議会が10団体ある。市内全域約100箇所、毎年同じ地点で水質検査を地域の方と一緒にやっている。

委員 意 見	それぞれの地域自治区にまちづくり推進委員会がある。そこが一緒になって、川を自分たちで清掃したり、地域の人がきれいにしたりして、今ホテルがここ何年か来る。全市内ホテルの来るような環境とは思わないが、こういったことを積極的にしていくのは非常に良いのではと思う。
--------	--

委員 意 見	地域で菌を作っているが、その菌が生ごみ堆肥を作るのに適している。申請すると市からもらえるコンポストに生ごみを入れて、菌を入れて混ぜておくといい堆肥ができる。コンポストはあげたけれども、その先の使い方は何も書いていないので、そういうものを推進されたら良いと思う。生ごみが消えれば、生ごみを処理するのに掛かるお金が市としても掛からなくなるはず。もっと宣伝した方が良いと思う。
--------	---

委員 意 見	市民にどうやって行動してもらおうかというところで、今回の会議を通して、やはり本気度が伝わりにくい所があるかなというふうに感じる。例えば、この会議の資料が紙の状態で印刷されて郵送されて来たが30枚くらいあるので、全員に郵送すると、コピー用紙一締めぐらいいは使っている。私はメールでもらえれば、タブレット端末で読めて良いと思っているが、紙で送ってきた方が読みやすいという方には紙で送ることを全部やめるというつもりはないが、何かゼロカーボンシティを目指すという中で、できることはもうこれ以上ない、という所まで市がやって、市民にも伝わるような姿勢を見せるということができないかと思う。この会議もオンラインでの開催を検討しても良かったんじゃないかと思うが、何かそういう従来のやり方じゃないやり方で、環境のためにどんどん取り組んでいく、何か壊してやっていくというような姿勢が見えるように、市もそこまでの本気度を見せたら、もっと
--------	---

	市民も何かやらなきゃというふうに思うようになるんじゃないかと感じた。
--	------------------------------------

(4) 第三次宮崎市環境基本計画に基づく 令和3年度 個別施策の目標設定

事務局説明	<事務局から「第三次宮崎市環境基本計画に基づく 令和3年度 個別施策の目標設定」【資料①】について説明。>
-------	---

その他 「2050年ゼロカーボンシティみやざき」

事務局説明	<事務局から「2050年ゼロカーボンシティみやざき」【資料④】について説明。>
-------	---

委員質問	省エネの方はわかるが、再エネの導入というのは、何か具体的には動いているのか。
事務局回答	再エネの推進については、現在も太陽光パネル、蓄電池の補助を行っている。それ以外についてはこれから考えていく。

委員意見	<p>省エネと再エネの導入である程度削減して、足りない分は森林の吸収でというイメージだが、省エネは市民が普段の生活の中でいろいろ取り組んでいくものであったりとか、事業者がそれぞれの中で取り組んでいくものだが、森林の部分というのはなかなか手が届きにくい部分である。宮崎市を中心としたこの中部地域というのは、森林も多いが、最近非常に伐採量が増えている。ただそれに対して、再造林とって、その後に木を植えるというのが今すごく伸び悩んでいる状況である。原因についてはいろいろあって、切ってお金になるまでには30年40年かかってなかなか先が見通せないとか、木材価格が今はウッドショックでぐっと上がってるが、それまでずっと低迷していて、なかなか山を持っててもお金にならない、維持費の方が大変だという状況が続いている。そういった山林の所有者の意識をいかに変えていくのかというのもあるし、それが県であったり市であったり、公共の部分が森林造成にも力を入れていかないといけない。やはり山が荒れて、木が無くなってはげ山になってしまうと、そこで大雨が降って土石流に繋がったりとか、市民生活に非常に大きな影響を及ぼすこともあるので、そういった面はやはり行政の部分が、県と市が一体となって取り組んでいながら、そういう山を</p>
------	---

何とか維持していこう、という考えを進めているところ。宮崎地区は非常に雨も多くて、太陽も十分降り注いでいるので、ほったらかしても、どんどん木は生えてきて、森にはなるが、実はこのゼロカーボンで二酸化炭素の吸収をしっかりと高めようとするれば、しっかりと成長の高い杉であるとかヒノキであるとか、そういう人工林とかで再造林していかないと、なかなかそういう吸収量というのは伸びない。それで、しっかりとした整理をやっていかないと、山は保てないということもあるので、そこら辺は協力してやっていきたいと思うし、市民にもそういう森づくりに対する意識を高めてもらって、今、市民ボランティアであるとか、企業の森づくりとか、各地で進んでいるので、是非そういったものについても意識を高めてもらいたい。それを踏まえつつ、環境教育というのがあったが、そういったものにも是非力を入れてもらえればと考える。